

「道化師の朝の歌」

作…油田 晃

1 の設定

舞台…

伊勢湾。海沿いの町。

食卓を囲む椅子が2脚、それは壊れていて、

どこかで間に合わせたかのような椅子が2脚ある。

テーブルはない。箱がいくつかある。

登場人物…早苗（さなえ） 祖母

孝志（たかし） 息子・父

洋海（ひろみ） たかしの娘

開場の段階から、舞台にはかすかな明かり。

BGMに加えて、波が寄せては返す音が聞こえる。

開演前 ご案内と諸注意

ご案内が始まって少しくらいから、洋海がやってくる。

コンビニかスーパーの買い物袋を持っている。買い物らしい。

洋海 …おばあちゃん、ご飯あるの（諸注意の声とかぶって構わない）

早苗 …（袖声）あるよー、冷やご飯。あたためなかんけどな

洋海 …自分で温める。

箱を使ってテーブルを作り、洋海はその上に袋から総菜群を置いて行く。

いくつかを置く。

ご飯を温めに一旦はける。その時間。

洋海、戻ってくる。ぼんやり、

ト、

小型ラジオなモノを取り出す。ヘッドフォンを両耳に入れる。

チューニングのボタンまたはつまみをあわせる。

音楽が流れる。

大きくなり、暗転。

1（深夜の「ぬた」）

深夜。

明かりがつく

音楽はそのまま。

洋海、ボタンを押して音楽を止める。
テーブルに置いた総菜のパッケージを外して行く。

洋海 ..ふふふふ(思い出し笑いのような)

早苗、やってくる。

ラップのかかった茶碗を持って。

早苗 ..あんだなんやな。ご飯。

洋海 ..ああ

早苗 ..(テーブルに置き)何をわろてんの？

洋海 ..うん、いや、うん

早苗 ..変なこと考えてたんやろ

洋海 ..え？いやいや、やめてよ・・・ふふふふふ(収束してゆく)

間

早苗 ..ふふふふ

洋海 ..何おばあちゃん笑ってんの？

早苗 ..わろてみた

洋海 ..は？

早苗 ..わろてみた、さっきのあんだみたいに。なんか楽しなるかなあと
思て

洋海 ..どう？

早苗 ..うくん、・・・あんまりかわらんな。笑ろた方がええ、笑顔はムリで
も作った方が若返りますにとかどこや？、どこやった？、まあええわ。
言われたけどな。おもしろくないのにわろた方がストレスたまるばっか
りや。

洋海 ..それは言えるかもね。・・・お父さんは？もう寝てる？

早苗 ..まだ帰ってきてないで

洋海 ..そう。

早苗 ..部屋見てないから、おるかもしれんけどな。

洋海 ..あ、そう

早苗 ..せやと思うけどな。

洋海 ..・・・、(部屋の方に)お父さん

何も返事はない

洋海 ..(部屋の方に)・・・(強めに)お母さん

何も返事はない。

洋海 .. (上を向いて・大きく) お母さん
早苗 .. (洋海を見ている)
洋海 .. (早苗を見て) なんで、私じゃなくて、お母さんだったんだろう
早苗 ..
洋海 .. 絶対私の方が良かったのに
早苗 .. そんなこと言うたらあかんの
洋海 .. だって、
早苗 .. 言うてもええけどな。ここだけにしとき・・・。そんなこと言うたら
洋海 .. おばあちゃんかて同じやがな
早苗 ..
洋海 .. なんて望さんで、おばあちゃんやなかったんやろ。私の方が先に死な
早苗 .. なあかん。それがスジやろ。
洋海 ..
早苗 .. 私みたいなもう役もたたん人間が残ってしもてき。なあ、なんでなん
洋海 .. やろなあ。
早苗 ..
洋海 .. なんてなんだろう
早苗 .. おじいちゃんの時も哀しかったけどなあ。もつと哀しいわ。
洋海 .. うん
早苗 .. 血もつながってない嫁やのになあ。・・・(惣菜を指して)「ぬた」
洋海 .. か、それ。
早苗 .. うん
洋海 .. なんだや、ブリが入ってないやんか、イカかいな
早苗 .. お母さんが上手なんだよね
洋海 ..
早苗 .. せやったなあ。
洋海 .. どうやって作るかきちんと聞いておけばよかったなあ
早苗 .. おじいちゃんがな
洋海 .. うん
早苗 .. おじいちゃんがな、おばあちゃんの作る「ぬた」より、望さんの作る
洋海 .. 「ぬた」の方が美味しいいうてな。
早苗 .. そうなんだ
洋海 .. 私、そういうのなんとも思わへん方やから、「ほなこれからは『ぬた』
早苗 .. は望さんやなあ」って言うたらな、望さんがえらい謝ってきてな。
洋海 .. せやせや、せやったせやった。

ト、

孝志が帰ってくる。

孝志 .. なんや二人ともまだ起きとるんか
洋海 .. おかえり
早苗 .. おかえり。あんたご飯たべたんか？
孝志 .. いや、軽く食べたけどな、洋海なんやお前、今か食事。

洋海 …うん、
孝志 …はよ食べて、はよ風呂入って、はよ、東京戻れ
早苗 …風呂わかさなあかんよ
孝志 …そうか

ト、
着替えに行く。

洋海 …はよ寝ろなら、分かるけど。
早苗 …・・せやけど、もう区切りもつきそやしな、おばあちゃんももう洋海
は戻った方がええと思うよ。
洋海 …区切り。かあ
早苗 …どつかで区切りつけなしゃあないやんか
洋海 …でも、戻ってももうしようがないから。向こうに区切りついたらし。
早苗 …なんでやな、あんたそれ、その、あのさ、彼氏さ、なんやった、あの
人さ。
洋海 …うん、ねえ、そのね、ふふふふ
早苗 …なんやの、何でわろてんの？
洋海 …ええ、ふふふふ
早苗 …(よくわからない)
洋海 …ふふふふふ(収束してしまう)

孝志が戻ってくる。

焼酎の水割りらしきグラスを持っている。

孝志も洋海の惣菜を食べる

孝志 …洋海、お前も呑むか？
洋海 …いや、いい。
孝志 …あれ、珍しいやないか、オレ譲りの「ザル」の洋海ちゃんが。お父さ
んの晩酌の楽しみはね、こうやって娘と一緒に呑むというのがね、
洋海 …うん
孝志 …のまへんのか？
洋海 …うん
早苗 …あんた風呂どうすんのか
孝志 …そうやなあ
早苗 …沸かしとこか
孝志 …ええ、ええ、自分でする
早苗 …あんた
孝志 …何い？
早苗 …私の分は？
孝志 …え？

早苗 .. お母さんのお酒は？
孝志 .. 自分で作ってよ。オレが作ると「うすいうすい」言うやんか。
早苗 .. ほな濃うしたらええねん
孝志 .. 「濃い濃い」いうやないか
早苗 .. あんたは加減をしらんねん
孝志 .. 加減やないて。
洋海 .. (かぶり) で、お母さんが結局作るんだ。
孝志 うん、せやったなあ

間

洋海 .. あたし作ってくる

洋海、はける。

洋海のはけた方を見る早苗

早苗 孝志
孝志 .. おん？
早苗 .. 洋海の彼氏なんて名前やった？
孝志 .. 和田君、和田道德(わだ・みちのり)くん。道德と書いて、みちのりや。
早苗 .. 洋海、別れたらしいで。
孝志 .. は？
早苗 .. うん
孝志 .. なんで？
早苗 .. 詳しく聞いてない
孝志 .. ああ、そうか。 . . . おつ、「ぬた」やんか
早苗 .. 望さんが上手やったなあって洋海と言うってたんや
孝志 .. オヤジも好きやったしなあ。ブリは入ってないわな、買うてきた奴には。
早苗 .. お父さんがカツオの船から落ちて、おらんかった時な、
孝志 .. おん
早苗 .. あれ、船に乗る日の前の夜が、せや。「ぬた」やったんや。
孝志 .. よう憶えてんな
早苗 .. お父さん、望さんのを美味しい美味しい言うてな、
孝志 .. せやったか
早苗 .. うん、せや。思い出したわ

洋海、戻ってくる。グラスに水割りを持って。

洋海 .. はい。

早苗 .. ありがとう。(呑む) ああ、ええ加減やんか
孝志 .. ほんまかそれ
早苗 .. 孫の作ったもんはなんでも美味しい、いくつになっても
洋海 .. おばあちゃん、本当は薄いんじゃないの
早苗 .. 薄い
洋海 .. じゃあ
早苗 .. (返し) 濃うもない
洋海 .. ちようど良いんだ。ていうか、お父さんが下手すぎるんじゃないの？
早苗 .. どれ、孝志(と、孝志の水割りを呑む)。あんたこれ濃いわ
孝志 .. おれはこれがちようどええの。母さんのはカラダのこと考えて薄くしてるの
早苗 .. ほんなことあんたに言われたの初めてやわ
孝志 .. 毎日、毎晩思てるよ
早苗 .. よういうわ、もう。

間

孝志 .. ツバス。ハマチ。ワラサ。ブリ。
洋海 .. ?
孝志 .. ブリは出世魚言うてな、大きになると名前が変わってゆくんや。オヤジは、ブリよりもカツオの方が儲かる言うてさ、あの辺では一番早うカツオはじめてさ
早苗 .. せやったなあ
孝志 .. 若いモンはマグロを追っかけて、ちよつと年重ねるとカツオやブリになんねん。それで年老いて来たら、牡蠣とかアオサとかな。
早苗 .. だんだん、海が近かなんねん。あんたが生まれた時、お父さんは南氷やったんや
孝志 .. せやせや
早苗 .. 小学生くらいやったなあ、カツオになったんは。
孝志 .. マグロで稼いで家建てて、まあ、何ヶ月も帰ってこようへんからなマグロは。オヤジなりの決断やったんやろなあ
洋海 .. でも、お父さんは漁師にならなかつたんでしよう？
孝志 .. うん、せや。
洋海 .. どうして？
孝志 .. オヤジがなるな言うたから
洋海 .. なりたかった？
孝志 .. どうやろ、みくんな漁師やったでなあ、そのまま後継いだのもおるしなあ。あれ、何でオヤジはなるな言うたんやろうなあ。
早苗 .. ぶきつちよやでさ、あんたが(笑)
孝志 .. そうなんかなあ、でも、魚獲るだけではもうあかんとか思ってたんかもわからん。

早苗 ..それはよう言うてたな
洋海 ..お父さん、私、漁師するとか言い出したら怒る？
孝志 ..ええ？お前が？
洋海 ..うん
孝志 ..お前、女やないか。せやで、道德君が漁師なるとか言うんやったらまた別やけど、
早苗 ..（孝志を見る）
孝志 ..ああ、ああ、ああ、すまん。
洋海 ..おばあちゃんから聞いたでしよ
孝志 ..いや、まあ、
洋海 ..あのね、別れちゃった。
孝志 ..なんでや
洋海 ..え？
孝志 ..お母さんの葬式も来てくれたやないか。うちの親族の方に座ってもらって、
洋海 ..・・・
孝志 ..お前、ついこの間やないか、
早苗 ..なんやちよつとケンカしただけなんやろ、な
洋海 ..ううん、そういうんじやなくて
孝志 ..そういうんやなかったら
洋海 ..うん、あのね、あたし、まだ言ってなかったけど、その、妊娠してるのね
早苗 ..なんやな！（めでたい）
孝志 ..それはよ言えよ（めでたい）。
洋海 ..めでたくないんだって、
孝志 ..なんでー、オレお母さんに今すぐ言いに行こう思ったがん
早苗 ..何か月？
洋海 ..3か月
孝志 ..せやから、酒をのまんのか！えらい！乾杯！（お腹に）乾杯！
早苗 ..おめでとうやんか！
洋海 ..うん、だからね、違うんだって。
孝志 ..なんや、ほな
洋海 ..うん

間

洋海 ..生まれてくる赤ちゃんが大丈夫なのかって。
孝志 ..・・・どういうことや？
早苗 ..（意味がわからない）
洋海 ..中学まで私こっちに居たじやない。高校から東京に行つて。
孝志 ..うん

洋海 ..この間、こっちの友達と会ったら、みんな結婚できないでいるの。何でだと思う？

早苗 ..・・・。事故か。

洋海 ..(うなずく)

孝志 ..なんでも、そんな話になるんか。

洋海 ..

孝志 ..せやでお前のこと考えて、高校、東京に選んでやな。ええ？

洋海 ..だから、

孝志 ..お前だけ東京住まわせてやな、ええ、お前、

洋海 ..・・・。だけどさ、生まれてくる赤ちゃんがどうなるかわからないって

洋海 ..言われたら、確かにそうじゃない。私、事故があつて中学までこっ

ちに住たんだから。

孝志 ..そんなもん、その間にどんどんこっちで赤ちゃん産まれとる。

早苗 ..せやんか

洋海 ..私だつてそうやって言ったつて。だけど、そうじゃない赤ちゃんが産

まれる確率が上がつてるとか言うのもあるじゃない。

孝志 ..そんなオレはしらん

洋海 ..お父さんが知らなくてもあるんだつて

孝志 ..うそや、そんなもん

洋海 ..うそかどうか分らないでしょう。

早苗 ..せや。・・・うそかどうか分からへん。せやから、本当かどうか

もわからへん。せやけど、やっぱりうそかどうかもわからへん。ずー

つとそれに私は振り回されて来たんや。

間

孝志 ..ほんでなんや、どうせええつちゅうねん

洋海 ..・・・産むのはどうかつて

孝志 ..なんやねん「どうかつて」。役場の人間みたいなモノの言い方やない

か！

洋海 ..どうかよ、どうか。墮ろせとか言えよつて

早苗 ..あかんけどな。墮ろしたら

洋海 ..だけど、はっきりしろつて

孝志 ..せや。

洋海 ..だから、なんだか居づらくなつちやつて。

孝志 ..それに、・・・やっぱ怖いし。

孝志 ..何が？

洋海 ..産んで大丈夫じゃなかったらどうしようつて。

孝志 ..

早苗 ..そんな洋海やったら丈夫な赤ちゃん産まれてくるわさ

洋海 ..

2 応援ラジオ

信二 (しんじ) さん・タレントみたいなのらしい
信子 (のぶこ) さん・マネージャーみたいなのらしい
安本 (やすもと) さん・ディレクターみたいなのらしい

暗転の中

信二さんは電話中

信子さんはノートに何か字を書いているようだ。

信二 .. (電話) え? 何? もう迷惑掛けないとか言ったじゃない。・・うん・
・うん・うん・ (明かりがつく。信子がちょこんと座っている) ・
・いやいや、そんなことはこっちが聞く必要があるわけ? ・・・
え? でいくらなの? ・・5万? ・・それさ、何とかするからって、い
つだ? 8月くらいにオレ渡したじゃない。・・うん・うん・
(唐突に電話を切る) ・・・、
信子 .. (信二を見る)
信二 .. オヤジ
信子 .. あ、そう
信二 .. 金貸してくれって
信子 .. また?
信二 .. 言い訳してたけど、もううるさいからもう切った。

間

信二 .. こつちからいくら借りたとか憶えてないんだろな。・・マヒしてる。
信子 .. ・・・貸すからじゃないの?
信二 .. 何が
信子 .. 貸すから、また借りるんでしょ
信二 .. 打ち出の小槌かおれは
信子 .. そんなにないじゃん
信二 .. ないけどさ
信子 .. 貸さなきゃ良いのに
信二 .. 貸さなきゃ、誰が借金返すの?
信子 .. そうなんだけど、じゃあ、貸してやればいいじゃない
信二 .. だからさ、そりゃそうなんだけども、何? この電話? もうさ、着信の
画面で親父だと分かった時からイヤな予感する訳よ。
出たら、出たでさ、「おい、5万かしてくれ」ってさ
信子 .. 保証人かなんかなの?
信二 .. あれ? 言わなかった?、信ちゃん、小さい頃さ、お年玉とかもらって
銀行の口座とか開かなかった?

信子 .. あ、どうだったかなあ、うちはあれだ、「預けとくね」って言ったきりかなあ

信二 .. あらま使われちゃった訳ね

信子 .. あ、本当だ、今思い出した。

信二 .. うちさ、小さい頃にそのお年玉を預けて、俺の名前で口座開いてね、なんか嬉しいじゃない。

信子 .. うん、

信二 .. でもね、ここからのの。

大人になっても口座はあるじゃない。当たり前前だけど。それで親父が金借りてるの？

信子 .. ハンコは？

信二 .. そりゃ小さい頃のハンコだから、そんなもの知らないよね、こっちは。

アハ

間

信子 .. (おどけて) そりゃないよねえ

信二 .. (おどけて) ねええ

信子 .. どっかからお金でも降ってこないかしら

信二 .. 見たことないねえ

信子 .. 宝くじでも当たらないかしら

信二 .. 当たらないねえ

信子 .. 誰かお金くれないかしら

信二 .. 仕事しないと、いや仕事しても大してくれないねえ、

信子 .. アハ、(おどけて) そりゃないよねえ

信二 .. (おどけて) ねええ

ト、信二の携帯が鳴る。

着信画面を見て、電話に出ない信二。

信二 .. オヤジだ。

鳴り続ける。

留守電に切り替わったようだ。

信二 .. あれさ、国の借金は増えているんでしょ？

信子 .. ああ、そうみたいね

信二 .. あれはダメなんでしょ

信子 .. そうじゃないの

信二 .. なんで借金できるの？

信子 .. あれでしょ、国債

信二 .. 国債。

信子 .. 国は続くんだから、いつか返すんでしょ
信二 .. ふくん
信子 .. え？
信二 .. いいね、国って
信子 .. どして？
信二 .. いつか返せばいいんでしょ
信子 .. うん
信二 .. オヤジ死んじゃったら俺だもんなあ。
信子 .. まあねえ
信二 .. いつかってないもんなあ。
信子 .. ・
信二 .. いいなあ、俺も生まれ変わったら国になろう。いや、だけどさ、国が
なくなたらどうすんの？
信子 .. は？
信二 .. 国がなくなるとかさ、ほら戦争になつて占領されたりとかさ
信子 .. そりやないでしょう
信二 .. どうして？
信子 .. 戦争とかままずないでしょう。
信二 .. いやわかんないよお、そんなの
信子 .. ほつといても、滅びるわよ、
信二 .. 言うねえ
信子 .. あの、原稿作りますね。
信二 .. おお、そうだそうだ、ちよつと見せてよ、

ト、信子のノートを見る。

信二 .. ああああああ、「絆」ね、「家族の絆」「友達との絆」、「絆の語源は、
犬などを繋ぎ止める手綱と言われています」、これ本当？
信子 .. ネットで調べた
信二 .. ふーん、「これが転じて、断つことのできない人と人の深い結びつき
という意味で使われるんですよ」。ああそう。「糸偏に半分ですネ、
絆は。ヒモやロープなどをよく見てください。引つ張っても切れない
のは、何本もの糸が絡んでいるからです。」これもネット？
信子 .. それは創作
信二 .. 誰の？
信子 .. あたしの
信二 .. 信ちゃんやるねえ。
信子 .. 光栄です
信二 .. で、何、これをしゃべれと
信子 .. どう？
信二 .. ・・・「絆」・・・、恥ずかし。

信子 .. 恥ずかしいよねえ
信二 .. 「今、私たちは改めて絆の大切さに気づきました」 ププ
信子 .. もっと早く気付いてほしいよね、
信二 .. でも、こういうので良いんですよ、
信子 .. いや、わかんないけど
信二 .. 他には、
信子 .. (ノートをを見て) えーとねえ、あ、これ「心を一つにがんばろう」
信二 .. 出た！心！一つ！がんばろう！メンタピンだな。これに絆、あと、
あれだ、みんな、これで満貫だな。
信子 .. 「みんなで心を一つにがんばろう絆」？これはおかしいな
信二 .. 「みんなが絆を一つに心をがんばろう」
信子 .. なんだそりゃ
信二 .. 間を取ればいいんだ、間を
信子 .. 「絆 みんなで心を一つにがんばろう」(ニカッ！)
信二 .. なんだかわからないけど感動する。
信二 .. いいねえ、なんだかわからないのに感動する
信二 .. ・・・絆ねえ、みんなねえ、心ねえ、どれも責任取れてない
信子 .. 取れないからいいんじゃないの
信二 .. そういうもん？
信子 .. そういうもんでしょう、
信二 .. あら辛辣な
信子 .. そうそう、この間、聞いたんだけどね、
信二 .. おう
信子 .. なんとかいうアーティスト、アーティストって言っても、自分がそう
思ってるだけで、勝手に歌作ってるだけの子なんだけど、
信二 .. 自称ね
信子 .. まあそうね
信二 .. ギターかなんかで？
信子 .. そう
信二 .. oun
信子 .. それがね、向こうで、「みなさんを応援する歌を5曲作ってきました」
って言ってるね、
信二 .. あ、まずいね
信子 .. わかる？
信二 .. どうせ誰も知らない歌だろ
信子 .. そりゃそうよ、そのために作ったんだから
信二 .. きっついなあ
信子 .. きっついよ。まあ、おじいちゃん・おばあちゃんは一生懸命聞いたらし
いのよ。
信二 .. 義理堅いなあ、そこまでしなくていいのに。
信子 .. で、その避難所ね次の日から「飛び込みの慰問・パフォーマンスはお

断り」って張り紙が

信二 .. そりやそうなるよなあ、誰か分からない奴の、聞いたこともない歌聞かされて、頑張つてとか言われてもなあ。満足してるのそいつだけだもんな。何？飛び込みで行ったの？

信子 .. 飛び込みしかできないわよ、コネもないのに

信二 .. どうせブログかなんかで「なんとか市の避難所に行きました！」とか書くんだらう

信子 .. 自分で作った曲のCD-R、配ってるらしいよ。

信二 .. がれきですな

信子 .. がれきですな

信二・信子 .. (おどけて) そりやないよねえ

ト、そこへ安本がやってくる。

安本 .. いやいやいやいや、遅れました

信二 .. おはようございます。よろしくお願いします。

信子 .. 今夜はよろしくお願いします。安本さん、これ、つまらないものですけど

ト、信子、お菓子の入った紙袋を渡す。

安本 .. いやいやいやいや、こんなお気遣いいただいて、

信子 .. スタッフの皆さんで

安本 .. すみません、いやいやいやいやいや。遠かったでしょう？

信子 .. タクシーだったので、はい。

安本 .. 町、ご覧になりました？

信二 .. はい。かなり戻ってきてるんですか？

安本 .. うん、だいぶとね、

いやいやいやいや、これは行けない立ち話。まあどうぞどうぞ(と椅子をすすめ)

信二 .. 失礼いたします(座る)

信子 .. 失礼します(座る)

安本 .. もうあと30分ぐらいしたら、信二さんご出演頂いて、こう、リスナーにね、バーンっとメッセージをね。軽く一発。

信二 .. (同時でも良い) はい。はい。ええ、ええ

安本 .. いやいやいやいや。なので、はい。もうお任せで。

信二 .. ええ、ええ。

安本 .. 元気づけちゃって欲しいんですよ、ええ、ええ、ええ(岩崎さん)

信二 .. 元気づけられるかなあ

安本 .. 何言ってるんですか、「チーム絆」のリーダーが信二さんなんだから。

ト、信二の携帯の着信が鳴る。
父らしく、保留か何かにしようとするが

安本 .. あああ、電話どうぞどうぞ

信二 .. いえ、良いんです

安本 .. 「父」つて出ていますよ。こんな時間の親からの電話は何かあるんですよ。

信二

信子 .. じゃあ、私が代わりに

安本 .. 親子の絆、再確認！いやいやいや

信二 .. すみません

信二、電話に出る。

信二 .. もしもし・・・うん、うん・・・あ、さっきは電話出れなくてごめんね。うん、うん、今ね打ち合わせ中で、もうじき本番なんだわ、だから

安本 .. 良いですよ、どうぞどうぞ。

(同時) 信子さん、このお菓子、リンゴの形してるのに、ミカン味なの、変わってるねえ。

信二 .. (同時、手で謝りながら、端の方へ)・・・だから・・・それは分かった・・・うん、それは分かりましたから。ええ、ええ。

はい・・・え？僕が？どうして？・・・え？、はい。あのう、また掛けます。はい、はい。ああ、どうも、お元気で。

電話を切る。

安本 .. 信二さんも、お父さんの前だとやっぱり息子になっちゃうんだねえ、いやいやいやいや(などと適当なことを言う)。(時計を見て) あ、じゃあ、おじさま様。また本番前に呼びに行かせますから。

信二 .. (はけようとする安本に) 安本さん！

安本 .. はいはい

信二 .. 「絆 みんなで心を一つにがんばろう」

安本 .. (ムダに頷く)

安本、ハケ。

信子 .. あの人の、バカね

信二 .. そうなっちゃうんだよ

信子 .. そうなっちゃうんだ

信二 (電話を見る) 10万だって

3 中学三年生

深川さん（ツアコンのような先生のような人）

池田さん（生徒1）

市川さん（生徒2）

小澤さん（生徒3）

角谷さん（生徒4）

明かりがつくと誰もいない。

深川がやってくる。

ぼんやり

池田がやってくる。

池田 ..あのを、ここで良かったんですやろか？

深川 ..あ、はい？

池田 ..池田と申します。

深川 ..あ、はい。お伺いしております。ご案内する深川です。

池田 ..ああ、よろしくお願いします。

深川 ..こちらこそ

池田 ..私、早かったんやろか？

深川 ..他の方ももう来られると思いますよ。あの良かったら（椅子をすすめ）

池田 ..ありがとうございます

池田、どこかの椅子に座る

池田、本を持っている。

深川 ..（話しかけようとするが、池田が本を開きだしたため声を掛けない）

深川は自分のこと、池田は本を読む時間。

ト、市川と角谷がやってくる。

市川 ..ここですかね

角谷 ..ああ、どうもありがとうございます。

市川 ..僕も参加者なんで、

角谷 ..ああ、そうなんですか、あの、角谷です。

深川 ..角谷さん、はい、お待ちしております。

市川 ..市川です。

深川 ..はい、市川さん、ようこそ

市川 ..ええ、

深川 ..もう既に、池田さんいらっしやいます

池田 .. 池田です。
市川 .. 市川です。
角谷 .. 角谷です。
3人 .. (銘々に) よろしくお願ひします。

3人、見合つて

市川 .. なんか、その緊張するとういか、なんか変な感じですね
角谷 .. ああ、やっぱりそうですか、私も昨日は眠れなくて、眠れなくてというのもおかしいんですけど、(二人も椅子に座る)
池田 .. (頷いている)
深川 .. あと、小澤さん、おざわさん？こざわさんが到着されれば始めますので
市川 .. はい
角谷 .. あの、質問って良いんですか？
深川 .. ああはい。私の分かる範囲と答えられる範囲でよければ
角谷 .. あの、こういうのは、なんかこうチャンスというか、神様かなんかわかんないんですけど、そういうのが、くれた訳ですか？
深川 .. おお、いきなり直球的な質問ですねえ、えーと、私もよくわかりません、すみません
角谷 .. ああ、そうですね
市川 .. 僕も良いですか？質問
深川 .. はい
市川 .. 今回はこのメンバーが？
深川 .. あ、そうみたいです。はい
市川 .. (角谷に) あの、憶えてますか？その、前の
角谷 .. あ、私ですか？
市川 .. ええ
角谷 .. はい、おぼろげながら、
市川 .. ああそうですか、あの、池田さんでしたか
池田 .. 池田です。
市川 .. あの、池田さんは憶えてますか、その、前の
池田 .. なんやらいろいろありましたなあ、もうぐちゃぐちゃですけど、今はだいぶ忘れてますわ。
市川 .. そうなんですよ、なんかねえ、いろいろと忘れちゃってて、僕も。市川って名前も、この間、初めて「ああそうだった」って思い出ししましたし、家族とか、住んでいたこととか、なんかねえ、どうも
深川 .. (やや遮り) まあ、皆さん、いろいろおありでしょうけども、今日が一つの区切りになるのでは思います。その区切りのお手伝いを担当させていただきます。

ト、
小澤がやってくる。

小澤 …遅れて申し訳ありません。

深川 …おざわ？

小澤 …ござわです。

深川 …お待ちしておりました。

小澤 …すみません、着替えやらなにやらいろいろありまして

深川 …ああいえいえ

小澤 …あの、みなさんよろしく願います。

市川・角谷・池田…(銘々にあいさつ)

小澤 …みなさんも今日、あれですか、

角谷 …はい

市川 …そうです

池田 …(頷いている)

小澤 …楽しみというか、怖いモノ見るような気もするし・・

小澤も席に着く。

深川 …改めまして、みなさんこんにちは

4人 …こんにちは

深川 …担当の深川でございます。本日はお集まり頂いてありがとうございます。今から、みなさんにですね、今日は本当に特別にですね、いろいろな方の計らいもありまして、「向こう」をご覧ください。

4人 …(それぞれに感慨深い)

深川 …そんなに長い時間ではありません。雲の間から光が差し込み、また雲に隠れてしまうようなそんな時間です。

4人 …(頷いている)

深川 …みなさん、では、準備をして頂きたいと思えます。

深川が椅子の格子の方を客席に向ける
それに従うように他の人間もそうする。
その格子の向こうを見るような形に全員がなる。

深川 …あの、じゃあ、そのはじめさせて頂きます。「向こう」の現在の姿が、出て参ります。こちらから声を掛けても、当然ですが、向こうに伝わるといふことはございません。ただ、見るだけです。

それでは、

角谷 …あの、

深川 …はい？どうしました？

角谷 …あの私、私やっぱりやめておきます。

深川 .. ああ、
角谷 .. そのなんか心の準備ができないというか、
深川 .. はい、あの、無理には言いませんので、
市川 .. こういうこと滅多にあるもんじゃないですよ
小澤 .. そうですよ、
角谷 .. いや、でも、なんか段々思い出しちゃって、大きくなってるのかなとか、こつちが思っていないことが起こってたらイヤだなとか
市川 .. そんなもんですよ
角谷 .. え？
市川 .. すみません、分かったようなことを言うつもりはないんですけど、忘れ去られてるかもしれないし、そうじゃないかもしれないんですけど、それでもやっぱりこういう機会があるんだったら知りたいじゃないですか
角谷 .. まあ
市川 .. 思ったようにはいきませんよ、たぶん
小澤 .. 私たちがそうですもんね
市川 .. ؟
小澤 .. 思ったような死にはできなかった。
市川 .. ・ ・ ・ そうですね
池田 .. 《頷いている》
市川 .. まあ、そんなもんかも、ですよ。

間

深川 .. どうなさいましょう？
角谷 .. あの、ごめんなさいお手間取らせました。やっぱりやります。はい
深川 .. よろしいですか？
角谷 .. はい、
深川 .. じゃあ、はい。改めまして。
では、始めたいと思います。
目の前をご注目ください。

照明が変化し、どうもそういう向こうの世界が見えているような
そんなのになる。

小澤 .. ああああ、あれかな
市川 .. あああああ、あれ？、そうなる訳？
角谷 .. 大きくなってるわああ
池田 .. あれ、ひ孫やろか、
小澤 .. おつ、そうすると、あの子かな

深川 ..はい。以上です。

照明戻る。

4人 ..ええええええええ

間

深川 ..以上です。

小澤 ..あの、さすがに短いですかね

市川 ..これは短いですね

角谷 ..はい

池田 ..(頷いている)

深川 ..こんなものでして。

小澤 ..(小さい声で) アンコール、アンコール、

市川 ..(一緒に) アンコール、アンコール

深川 ..いや、そのお気持ちは分かるんですが、

池田 ..私、めがね掛けてなかったで、あんまりようわからんだんさな

小澤 ..来た、不具合、

市川 ..ああ、こういうのはよくない、うん、よくない

角谷 ..仕切り直すべきですね。ええ

深川 ..あらあ、池田さん、でも、さっき本読んでましたよね。

池田 ..ううん、読んでへん

深川 ..いや、でも、さっき

池田 ..読んでたとしても、見えてへん

市川 ..やり直しですね

深川 ..えええええ、じゃああ、えーとー、まあ、その多少お気持ちも分かりますので、もう一回だけ。あの、あと一回だけですからね

池田 ..わかっているわかってる

小澤 ..よし行こう、

深川 ..はい。じゃあ、みなさん、ついて頂いて、ああ、大丈夫ですね。
目の前をご注目ください。

ふたたび、照明が変化する。

小澤 ..みんな元気そうだな

市川 ..やっぱりあれだ、新しい男だ

角谷 ..あの子大丈夫なのかしら

池田 ..ひ孫やひ孫、やっぱり、

深川 ..はい。以上です。

照明戻る。

深川 ……こんな感じですが。はい。短い時間で申し訳ありません。
小澤 ……うちは割とゲンキでした。はい。
市川 ……奥さんが再婚してましたね、まあ、はい。
角谷 ……子どもが大きくなってました。当たり前ですけど。
池田 ……ひ孫なんですやろなあ、孫が抱えてる子ですから、ええ

間

深川 ……これで一通り済みだったので、暫時解散という流れになります。
小澤 ……ああ、そうですか
深川 ……はい。
小澤 ……これは、また、観るだけというのも、なんだかその、ねえ
角谷 ……あの、私、多少すつきりしました。
市川 ……やっぱり嫁、再婚してたなあ、
小澤 ……腹立ってます？
市川 ……それはあんまりないんですけどね、一言こうねえ
池田 ……大きなひ孫でしたわ、あれお父さんにちよっと似てるんやろか
深川 ……みなさんがこちらに來られてから、もう15年経ちました。
巢立ちという訳ではないんですが、特別に向こうを本当に少しですが、
はい。ご覧頂くといい。
小澤 ……次もあるんですか？こういうのは？
深川 ……その、上といますか、そういうのが決めるというか、なんだか私もよく分かりません。
小澤 ……そうだよね
市川 ……こつちに來ると、いろいろ忘れるんですよ、だから、次あったとしても、今日のことを忘れてるかも知れない。
角谷 ……そうですよね
小澤 ……でもやっぱり短いよな
市川 ……それは言えますね、まあ僕はもう見なくても良いかなというのものもあるけど
角谷 ……見るだけというのは何か、その、あれですね、
小澤 ……なんかねええ
市川 ……こつちにそこそこおもいというのがあるだけにね
小澤 ……そうだ、それだ

などどぶつぶつ言ってるうちに、池田は手を合わせている。

池田 ……(手を合わせている)
全員 ……(池田の方をみる)

池田 .. 何にもできませんでな

市川 .. そうですね

池田 .. 私ら出来ることって、祈ることくらいですやろ

全員 .. (見ている)

池田 祈ってどうなるかはわかりませんが、
祈るしかないやんなあ。

池田、祈っている。

銘々、目を閉じているモノもあれば、池田を凝視するモノもあり。

ゆるやかに暗転

(終)